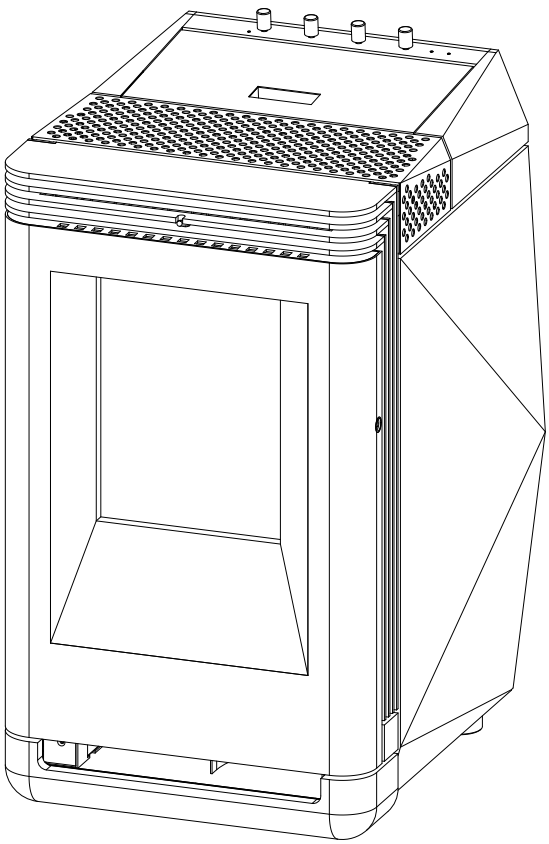
concord
ALCOTT

取扱説明書

品番AL1704

このたびは、本品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、取り扱いのわからないときや不具合が生じたときにお役立てください。



保証書別添付

安全上のご注意

安全に使用していただくための重要な項目ですので必ずお読みください。

このペレットストーブは、暖房機用です。室内暖房以外のご使用は絶対しないでください。室内暖房以外でご使用になった場合の故障・修理・事故その他の不具合については、責任を負いかねますのでご了承ください。

ここに表示した事項は、安全に関する重大な内容の記載です。表示の意味は次のようになっています。

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示します。

⚠ 注意　誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示します。

🛇 してはいけない「禁止」事項です。

❗ しなければならない「実施」事項です。

⚠ 「注意」事項です。

絶対に分解・修理・改造はしないでください。

絶対に触れないでください。

必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

警　告

高温部接触禁止

ストーブ運転中、及び運転停止後しばらくは、高温部、給排気筒等に触れないでください。
やけどの恐れがあります。
特に小さいお子様の見える家庭では、ストーブに触らせないよう、ガードなどを使用し、十分な配慮をしてください。

禁止

可燃物接触禁止

カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。また、スプレー・ガソリンなど引火の恐れがあるものは近づけないでください。発火、火災の恐れがあります。

禁止

木質ペレット燃料以外混入禁止

燃料タンクには木質ペレット燃料以外の物を入れないでください。故障の原因になります。

禁止

燃焼室異物混入禁止

燃焼室には、紙、布などを入れないでください
また、ライター、マッチでの着火、着火材は使用しないでください。

禁止

ストーブの上に物を置かない

ストーブの上に用途以外の物を置かないでください。
加熱し危険です。

禁止

給排気筒のはずれ危険

給排気筒が正しく接続しているか点検してください。外れていると運転中に燃焼ガスが室内に漏れて危険です。

分解修理禁止

故障、破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

分解禁止

異常時使用禁止

臭い、煙、煤の発生、異音など、異常を感じたときは運転を停止してください。
火災や異常燃焼の恐れがあります。

禁止

警　告

お手入れはストーブが完全に冷えてから

ストーブ運転停止後しばらくは、本体、給排気筒が高温になっています。完全に冷えてから行ってください。
やけどの恐れがあります。

禁止

ストーブ運転中は扉、灰受皿を開けないでください。

火災、やけど、異常燃焼の恐れがあります。

禁止

燃料タンクフタ開放厳禁

着火後は燃料タンクのフタが閉められている事を確認してください。
異常燃焼の恐れや、火災の原因となります。

禁止

給排気筒閉そく危険

積雪や異物などで、給排気筒の先端がふさがれているときは取り除いてください。
運転中に燃焼排ガスが、室内に漏れて危険です。

実施

アースを取り付ける

漏電時に感電の恐れがあります。
アース工事は必ず販売店に依頼してください。

実施

据付上の注意

お客様ご自身による設置は危険です。据付工事や移転工事は、必ずお買い求めの販売店に、ご依頼ください。
ストーブ及び給排気筒の備え付けには、各地の火災予防条例に従って備え付けてください。

実施

注　意

電源プラグのお手入れを

電源プラグを抜き、ほこりや金属が付着している場合は、取り除いてください。
ほこりが溜まると湿気などで絶縁不良になり、感電、ショートの原因になります。

ほこりやごみを取り除く

使用しないときは電源プラグを抜く

使用しないときや、お手入れの際は電源プラグを抜いてください。また、電源プラグは濡れた手で抜き差ししないでください。
火災や感電、予想しない事故の原因になります。

プラグを抜く

電源コードを傷めない

電源コードに物を載せたり、高温部に近づけたり、電源コードを傷めるような、ことはしないでください。また、プラグを抜くときはコードをもって引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

実施

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントの根元までしっかりと差し込んでください。又、傷んだプラグや緩んだコンセントは使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

実施

電源の接続

電源は適正配線された単相100V以外では使用しないでください。また、電源コードは延長コードを使用したり、たこ足配線をしないでください。発熱、発火の原因になります。

禁止

木質ペレット燃料は食べないでください

乳幼児が誤って口に入れないよう注意してください。

禁止

ストーブ表面のお手入れには、研磨剤など、ご使用なさらないでください

塗装のはがれ、さびの原因になります。

禁止

ストーブの上に花瓶等のこぼれやすい物、及び用途以外のものを置かない

水が内部に入ると感電や故障の原因になります。
また、高温状態のガラスに水などがかかると、割れる恐れがあります。

禁止

目　次

安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２～５

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６

各部の名称と機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７～８

使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９～13

燃料の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

ペレットの補給・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

扉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

トップカバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

はじめて使用するとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

運転の開始・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

火力と温風の調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９

燃焼に必要な給気量の調整・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

運転の停止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

着火タイマの設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

運転中に燃料がなくなったら・・・・・・・・・・・・・・・ 10

掃除モード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

日常のお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～12

定期的なお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～12

オフシーズンのお手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

オフシーズン中の保管・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

販売店によるメンテナンス・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

ストーブの移転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

危険な状態と対処法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

正常な状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

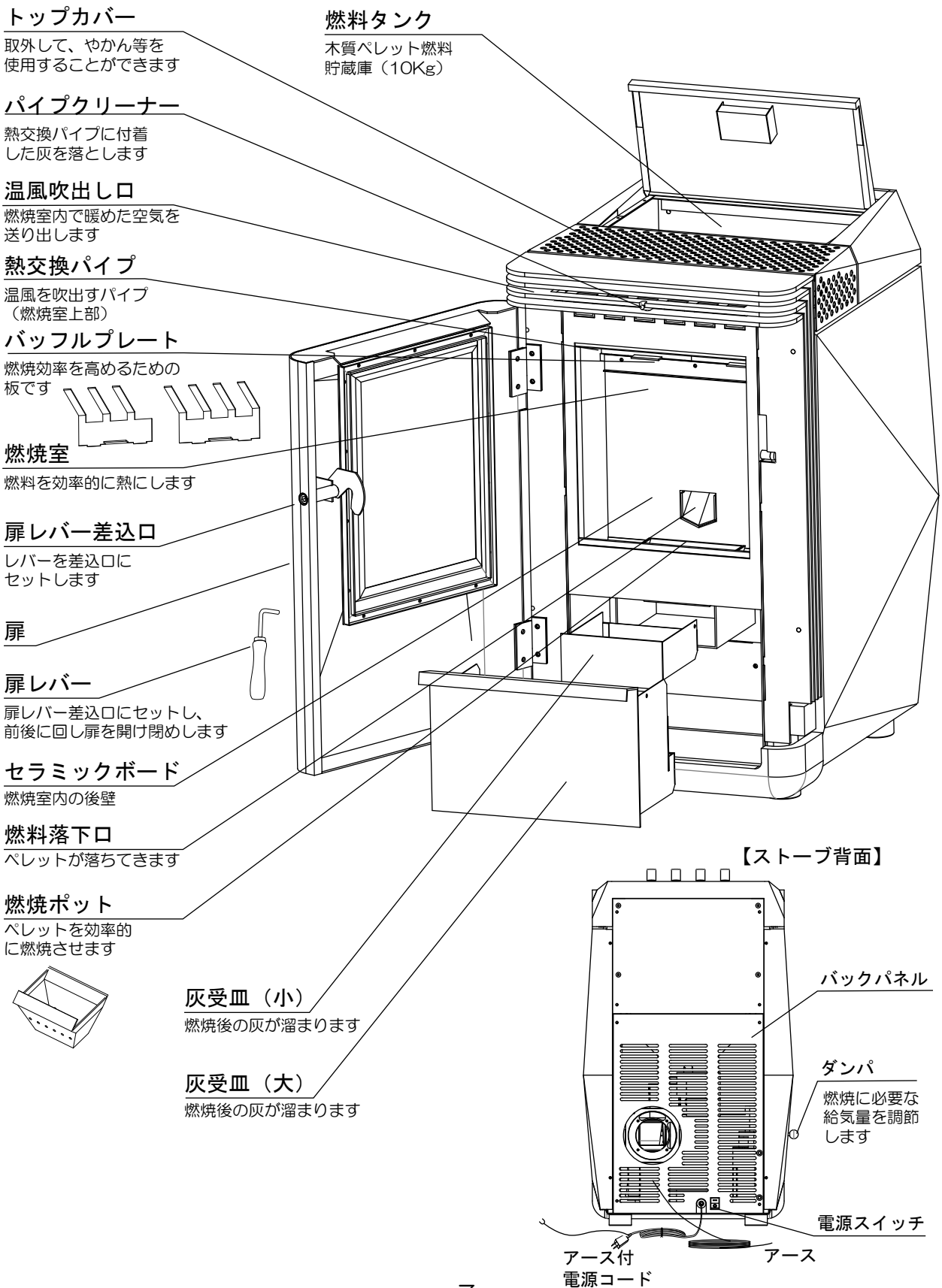
危険な状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

危険な状態の対処法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

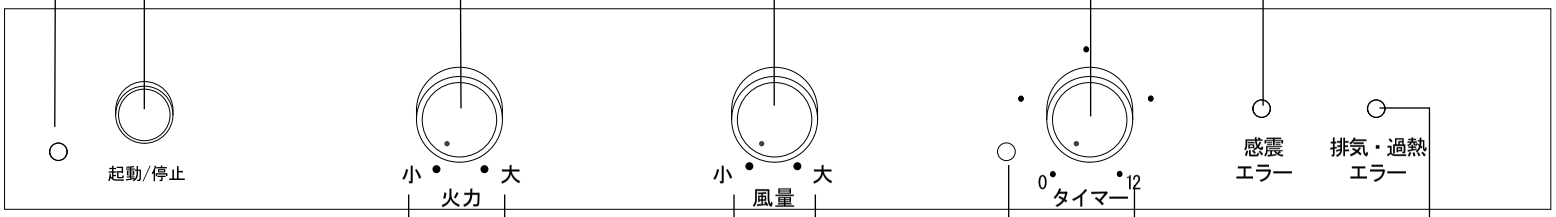
故障かな？と思ったら・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～17

仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

各部の名称と機能


トップカバー
取外して、やかん等を使用することができます
燃料タンク
木質ペレット燃料貯蔵庫（10Kg）
パイプクリーナー
熱交換パイプに付着した灰を落とします
温風吹出し口
燃焼室内で暖めた空気を送り出します
熱交換パイプ
温風を吹出すパイプ（燃焼室上部）
バッフルプレート
燃焼効率を高めるための板です
燃焼室
燃料を効率的に熱にします
扉レバー差込口
レバーを差込口にセットします
扉
扉レバー
扉レバー差込口にセットし、前後に回し扉を開け閉めします
セラミックボード
燃焼室内の後壁
燃料落下口
ペレットが落ちてきます
燃焼ポット
ペレットを効率的に燃焼させます
灰受皿（小）
燃焼後の灰が溜まります
灰受皿（大）
燃焼後の灰が溜まります
【ストーブ背面】
バックパネル
ダンパ
燃焼に必要な給気量を調節します
電源スイッチ
アース付電源コード
アース

コントロールパネル



運転ランプ

・正常運転はランプ（緑）の点灯で示します。
・燃料切れ及び着火失敗による自然消火はランプ（緑）の点滅でお知らせします。

運転スイッチ

・ストーブの運転、停止を行います。

火力ダイヤル

・ペレット燃料の供給量を調整します。

温風ダイヤル

・温風量を調整します。

着火タイマダイヤル

・着火時間を予約します。

感震エラー

・地震など大きな揺れを感知したときは、ランプ（黄）が点滅してお知らせします。

火力最小

火力最大

温風量最小

温風量最大

タイマランプ

・タイマ設定時はランプ（緑）の点灯で示します。

排気・過熱エラー

・排気異常時はランプ（赤）が点滅しお知らせします。
・過熱異常時はランプ（赤）が点灯しお知らせします。

タイマ目盛

・着火時間の設定を１目盛り3時間で示します。

使い方

【燃料の確認】

このペレットストーブは、木質ペレット燃料専用です。ボイラー用のバークペレットや、木質以外が含まれるペレットは使用できません。木質ペレットは原料や産地などにより品質（熱量や灰の多さ）が異なります。使用するペレットはストーブを購入された販売店によく確認してください。
※保管している間にペレットが湿気を持つことがあります。湿気を持ったペレットを使用すると着火しにくくなり、不完全燃焼の原因になります。

【ペレットの補給】

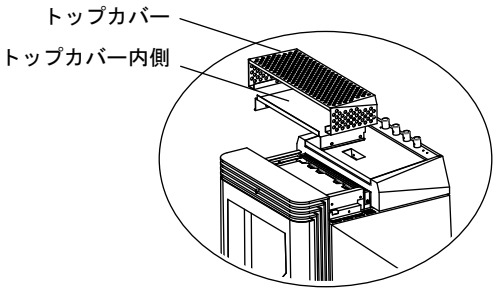
使用前には燃料タンクを確認し、ペレットを補給してください。燃料タンクの容量は10kgです。
火力が最大で６時間、最小で16時間燃焼します。
※ペレットの補給は運転前に行い、燃焼中は燃料タンクのフタを開けないでください。

【扉】

扉は付属の扉レバーで開閉します。扉レバー差し込み口に扉レバーをはめ込み、回すとロックがかかります。扉が閉まっていないと、空気の流れが無くなるので不完全燃焼やトラブルの原因となります。
しっかりと閉めてください。

【トップカバー】

トップカバーを外し、次にトップカバー内側を外します。
ストーブの上にやかん等を乗せ使用することが出来ます。
※トップカバーを外す際はやけどに十分注意してください。
※水や熱湯がこぼれないよう十分に気を付けてください。

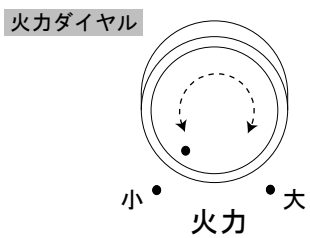


【初めて使用するとき】

初めて使用するときはペレットが供給されるまで少し時間がかかります。
運転スイッチを押す前に、燃焼ポットにペレットを適量（２つかみ・燃焼ポットの1/3くらい）入れてください。

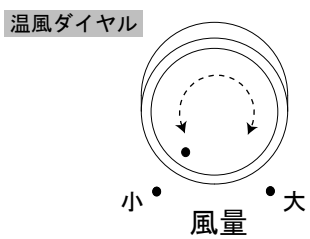
【運転の開始】

火力ダイヤルを中（12時方向）にしてから運転スイッチを押してください。
※火力ダイヤルが大きすぎると、ペレットの供給量が多くなるため着火時に大量の煙が出ます。
※火力ダイヤルが小さすぎると、ペレットの供給量が少なくなるため着火まで時間がかかります。



【火力と温風の調整】

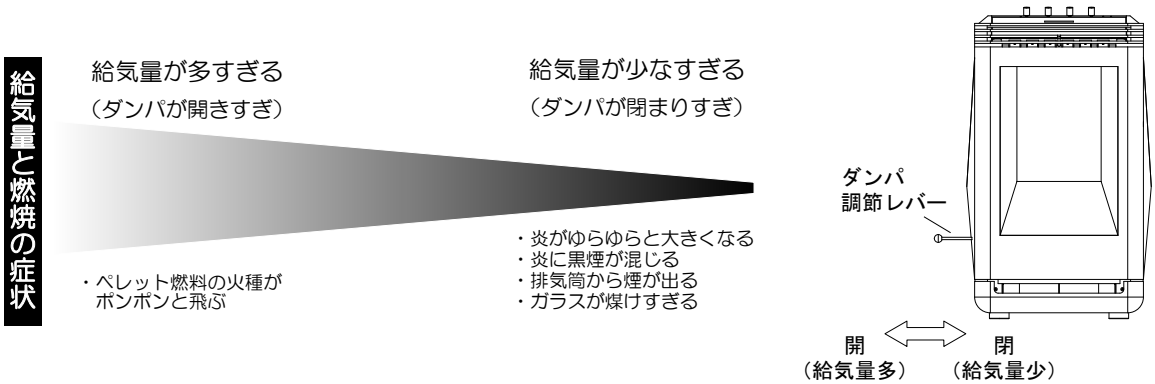
温風吹き出し口から温風が出てきたら火力と温風量を調整してください。
火力が大きすぎたり、温風量が小さすぎると、ストーブ本体が高温になるため安全装置が働きます。
一次的に温風が強くなり、炎が小さくなりますが、一定温度まで下がると元に戻ります。



使い方

【燃焼に必要な給気量の調整】

ダンパで給気量を調整できます。
給気量が多いと、火種が飛ばされやすくなります。立消えしそうな場合はダンパを閉めて給気量を少なくします。
給気量が少ないと、不完全燃焼になりやすくなります。炎に黒い煙が出る場合はダンパを開いて給気量を多くします。（14ページの良い燃焼参考）
※ダンパ調整レバーを手前に引くと給気量が多くなり、押しこむと少なくなります。

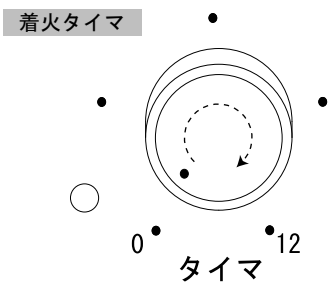


【運転の停止】

運転スイッチを押します。運転ランプ（緑）が消灯し、ペレットの供給が止まります。
安全温度になるまで温風吹き出しと排気は継続し、安全温度になったら停止します。

【着火タイマの設定】

着火タイマはストーブが停止しているときにセットできます。
起動するまでの時間分タイマダイヤルを回し、運転スイッチを押します。
※設定時間を変更する場合は、一度タイマダイヤルを0まで戻してから
　もう１度セットしてください。
※タイマダイヤルは自動で0に戻らないので、着火後は手動で0に戻し
　てください。



【運転中にペレットがなくなったら】

運転中にペレットがなくなると、運転ランプ（緑）が点滅してお知らせします。
初めて使用するとき同様、燃焼ポットに適量（２つかみ・燃焼ポットの1/3くらい）のペレットを入れ、火力ダイヤルを12時方向にしてから運転スイッチを押してください。

【掃除モード】

灰掃除などの際は扉を開けるので、室内に灰が舞うことがあります。これを抑えるため、排気ファンのみ運転させて舞い上がった灰を吸い出す機能「掃除モード」があります。
①本体が停止しているときに、運転スイッチを押して通常起動させます。
②もう１度運転スイッチを押すと運転ランプが消灯し、排気ファンのみが運転する「掃除モード」になります。
※掃除モード中にもう一度運転スイッチを押すと、通常起動します。
※掃除モードは20分後に自動停止します。

【日常のお手入れ】

日常のお手入れはストーブが停止中に行ってください。

■燃焼ポットの掃除

燃焼ポットが灰で埋まっていると、次に使用するとき着火しなかったり、大量の煙が出ることがあります。使用前または使用後には必ず燃焼ポットの灰掃除を行ってください。

①掃除用のハケで燃焼ポットの底に残った灰を灰受皿に落とします。クリンカーとよばれる硬い灰のかたまりができたときは、ハケの柄など硬い棒を使って確実に落としてください。

②着火ヒーターカバー(筒)にたまった灰を取り除いてください。

■窓ガラスの掃除

窓ガラスが曇っていると、燃焼状態を確認できません。窓ガラスはいつもきれいな状態にしてください。窓ガラスに付着した汚れは、新聞紙に水を含ませ、少し灰を付けて拭くとよく落ちます。

■ストーブ本体

ストーブ前面には効率的に熱を出すための特殊な塗料が塗られています。強く擦ると跡がつくので、本体前面の掃除を行うときは柔らかい布で掃うように掃除してください。

【定期的なお手入れ】

日常のお手入れの他、１ヶ月に１度は定期的なお手入れを行ってください。

■灰の処理

灰受皿（大）と灰受皿（小）にたまった灰は、お住まいの市町村の条例に従って定期的に捨ててください。灰の量は使用頻度やペレットの質により異なります。

■燃料タンクの掃除

燃料タンクの底にたまったペレットの粉は、燃料詰まりや立消えの原因になります。定期的にペレットを使い切り、燃料タンクの底にたまったペレットの粉を掃除機で吸い取ってください。

■熱交換パイプの掃除

温風を出すための熱交換パイプに付着した灰は、パイプクリーナーで掃除します。

①燃焼室上部（熱交換パイプ）のバッフルプレートを取り外します。

②パイプクリーナーを引き出して熱交換パイプに付着した灰を落とします。

③燃焼室内に落ちた灰を灰受皿に掃い落します。

④バッフルプレートを取り付けます。

※バッフルプレートは熱交換及び排気経路に多くの灰が吸い込まれることを防ぐ目的がありますので、正しく取り付けてください。

■バックパネルの掃除

ストーブ背面に付着したほこりは定期的に掃除機などで取り除いてください。

【燃焼炉上部】

熱交換パイプ　パイプクリーナー

バッフルプレート

【燃焼ポットを取外した状態】

着火ヒータカバー(筒)に
たまった灰を取り除く。

【バッフルプレート断面】

ガイド用ネジ

②

①

バッフルプレートは、①つまみを
持ち上げ、②手前斜め下に引き、
取り外す。

燃焼室裏
掃除ブラシ

灰受皿（小）

灰受皿（大）

【燃焼部断面】

燃焼ポット

奥

手前

着火ヒータカバー（筒）　着火ヒータ

【オフシーズンのお手入れ】

オフシーズンになったら、排気経路に付着した灰を掃除します。

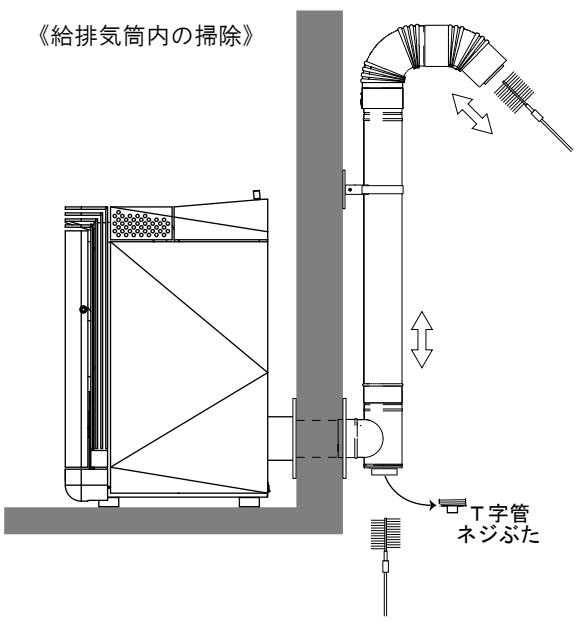
■燃焼室裏の掃除

①バッフルプレートと灰受皿（大）を取り外します。
②排気経路の上部、下部から付属の燃焼室裏掃除ブラシを入れて、燃焼室裏に付着した灰を落とします。
③落ちた灰は灰受皿（大）の奥に落ちます。掃除用のハケなどで取り除いてください。
④バッフルプレートを取り付けます。

■給排気筒の掃除

給排気筒の立ち上げ部分、横引き部分に付着、堆積した灰を給排気筒ブラシで掃除します。設置方法により排気筒の灰掃除の方法は異なりますので、販売店に相談して正しく掃除してください。

《給排気筒内の掃除》



【オフシーズン中の保管】

■燃料タンク
燃料タンク残ったペレットは粉になったり湿気を吸うため、使い切るか取り除いてください。

■電源プラグ
コンセントから電源プラグを抜いてください。

■給排気筒
給排気筒の先端（排気トップ）から鳥や虫が入らないように、排気筒キャップを取り付けてください。
屋外立上排気の場合は屋外立上用排気キャップも取り付けてください。

■燃焼室
湿気による燃焼室内のサビを防ぐため、燃焼室に除湿剤を置いてください。

【販売店によるメンテナンス】

本体や給排気筒の点検、扉のガスケットや灰受皿のパッキンなど消耗品の交換を兼ねて、２年に１度は販売店にメンテナンスを依頼してください。

【ストーブの移転】

引越しなどでペレットストーブの設置位置が変わる場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

危険な状態と対処法

【正常な状態】

■良い燃焼

ペレットストーブの炎は、薪ストーブのようにユラユラと燃えるのではなく、黄色く輝く炎になり、勢いもあります。

良い燃焼

【危険な状態】

■ガラスが曇って中が見えない

不完全燃焼により窓ガラスが黒く曇っていると、炎や燃焼ポットの状態を確認できないため危険です。
運転スイッチを押して消火させ、冷めたらガラスの掃除を行ってください。

窓ガラスが黒く曇る

■赤黒い炎になっている

正常な状態の炎は明るく勢いがありますが、不完全燃焼となっている炎は赤黒く勢いもありません。
運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。

危険な燃焼（不完全燃焼）

■ペレットが山盛りになっている

燃焼ポットの中でペレットが山盛りになり、火種や炎が残っている場合、熱は燃料落下口へと伝わり、やがて燃料タンクへと伝わるので大変危険です。
運転スイッチを押して消火させ、冷めたら定期的なお手入れを行ってください。

ペレットが山盛りの状態

【危険な状態の対処法】

■本体から煙が出た

停電時や過熱エラーによる強制停止が起こると、排気ファンが停止するため燃焼室内が煙で充満し、扉や燃料タンクなどから煙が室内に漏れることがあります。
部屋の窓を開けて換気し、自然と煙が排出されるのを待ちます。

■緊急消火方法

燃料タンクからの煙が止まらなかったり、燃料タンク内のペレットが焦げているなど緊急消火が必要な場合は、直接水をかけるのではなく、多めに水を含ませたタオルを燃料タンクおよび燃焼室に投げ込んで下さい。
タオルを投げ込む際は、扉を開けるので、周囲に可燃物がないことを確認し、やけどに十分注意してください。

緊急消火

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた
ストーブが起動しない	■電源プラグが挿されていない	電源プラグをコンセントに挿し込んでください。
	■背面の主電源がオフになっている	主電源を入れてください。
	■着火タイマがセットされている	着火タイマのダイヤルを０に元に戻してください。
ペレットが落ちてこない	■燃料切れ	燃料タンクにペレットを入れ、９ページの【はじめて使用するとき】と同様に運転を開始してください。
	■ペレットが詰まった 燃料タンク内にあるスクリューにペレットの粉や硬いペレット、ペレット以外の異物などが詰まると、スクリューが回らないためペレットが落ちてきません。	燃料タンクからペレットを取り除き、スクリューカバーを外してスクリュー内に詰まった異物などを取り除いてください。
ペレットに着火しない	■扉が開いている 扉が開いていると、燃焼室内に空気の流れが生まれないので、着火しません。	扉をしっかり閉めてください。
	■燃焼ポットが正しくセットされてない 燃焼ポットが正しくセットされていないと、着火ヒータの熱がうまくペレットに伝わらないため着火しません。	燃焼ポットを正しくセットしてください。
	■着火ヒータカバー（筒）が灰で埋もれている 着火ヒータカバー（筒）が灰で埋まっていると、ヒータの熱が伝わらないため着火しません。	着火ヒータカバー（筒）にたまった灰を掃除してください。
	■燃焼ポットの灰掃除がされていない 燃焼ポットの底に灰がたまっていると、空気が流れなかったり、着火ヒータの熱が伝わらないため着火しません。	燃焼ポットの底にたまった灰を掃除してください。
	■給排気筒に灰がたまっている 給排気筒に灰がたまっていると、空気が流れないので、着火しません。	給排気筒の灰掃除を行ってください。
	■排気管キャップが取り付けられている オフシーズン用の排気管キャップが取り付けられていると、空気が流れないので着火しません。	排気管キャップを取り外してください。

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた
着火前に大量の煙が出た	■燃焼ポットの灰掃除がされていない 燃焼ポットの底に灰がたまっていると、着火前に大量の煙がでます。	着火前には燃焼ポットの底にたまった灰を掃除してください。
	■火力ダイヤルが大になっている 火力が大きいとペレットの供給量が多くなるため、着火前に大量の煙が出ます。	起動時は火力ダイヤルを「中」にしてください。
	■ペレットが湿気っている 湿気ったペレットは着火前に大量の煙が出ます。	湿気ったペレットを取り除き、湿気のないペレットを使用してください。
大きな音とともに着火した	■着火時に大量の煙が出た 着火時に大量の煙が出ると、着火時に「ボン」という音とともに勢いよく炎が生まれます。また、このとき前面の扉から煙が漏れることがあります。	使用上特に問題はありませんが、「着火前に大量の煙が出た」を確認してください。 煙がひどい場合は換気を行ってください。
消火中に再起動できない	■消火中は再起動できません ストーブをオフしてから停止するまでは再起動できません。	ストーブが完全に停止してから再起動してください。
運転中に火が消えた（立消え）	■ペレットの供給量と給気量のバランスが悪い ペレットの供給量と給気量のバランスが悪いと、火種が飛ばされてしまうため立消えが起こります。	ダンパーを絞って給気量を少なくするか、火力ダイヤルを大きくしてペレット供給量を多くしてください。 うまくいかない場合は、代理店に依頼して燃料供給量を調整してください。
不完全燃焼する	■ペレットの供給量と給気量のバランスが悪い ペレットの供給量と給気量のバランスが悪いと、不完全燃焼を起こします。	ダンパーを開いて給気量を多くするか、火力ダイヤルを小さくしてペレット供給量を少なくしてください。 うまくいかない場合は、代理店に依頼して燃料供給量を調整してください。
	■燃焼ポットに灰がたまっている 燃焼ポットに灰がたまってくると、給気～排気の流れがうまくいかず不完全燃焼になります。	燃焼ポットの灰掃除を行ってください。
	■燃焼室裏に灰がたまっている	燃焼室裏の掃除を行ってください。
	■給排気筒に灰がたまっている	給排気筒の灰掃除を行ってください。

故障かな？と思ったら

トラブルが起きたときや疑問点があるときは、まずここを読んで対処してください。

症状	考えられる原因	処置のしかた
運転ランプが点滅した	■一定時間内に着火を確認できなかった 起動から一定時間内に着火を確認できないと、着火失敗と判断して運転ランプが点滅します。	15ページの「ペレットが落ちてこない」および「ペレットに着火しない」を確認してください。
	■運転中に燃料切れ／火が消えた 運転中に燃料切れやスクリューの詰まりなど、通常の消火や各種エラー以外で消火すると、運転ランプが点滅します。	上記の「燃料が落ちてこない」および「運転中に火が消えた」を確認してください。
感震エラーが点滅した	■感震センサが感知した 地震などの揺れを感知すると、安全のためペレットの供給を停止し、消火します。	温度が下がり完全に停止するまで待ってから再起動してください。
風量が強くなり、風量ダイヤルを回しても弱くならない	■過熱防止装置が働いた 本体の温度が上がると、熱を逃がすため自動で温風を強くします。しばらくすると元に戻ります。	そのまま使用しても特に問題はありませんが、送風音が気になる場合は火力を少し小さくするか、風量を上げて使用してください。
運転中に停止した （排気・過熱エラー点灯）	■過熱センサが感知した 過熱防止装置で温度が下がらなかった場合はストーブを強制停止させます。 排気ファンが止まるので、給排気筒を立ち上げていない場合では室内に煙が漏れることがあります。	煙が漏れる場合は換気してください。過熱エラーが発生した原因を調べるため、代理店に連絡してください。
運転中に停止した （排気・過熱エラー点滅）	■負圧センサが感知した 排気がうまく、されていない可能性が考えられます。以下の事項を確認してください。 ・強風が吹き付けている。 ・積雪で排気トップが閉塞されている。 ・給排気筒に鳥など異物が混入している。 ・給排気筒に煤や灰が大量に付着している。 ・熱交換パイプ、燃焼室裏側に煤が多く付着している。 ・シーズンオフ用の排気管キャップが装着されたままになっている。	強風が吹き付けている場合は使用を控えてください。 給排気筒の異物、煤、積雪、キャップを取り除いてください。 給排気筒の掃除、燃焼室裏側の掃除を行ってください。
運転中に停止した （エラー表示なし）	■運転中に停電した 運転中に停電した場合、排気ファンが止まるので、給排気筒を立ち上げていない場合、室内に煙が漏れることがあります。	煙が漏れる場合は換気してください。

仕　様

商品名	コンコード・オルコット
暖房方式	強制給排気（FF式）・強制対流形
点火方式	ヒータ点火式
使用燃料	木質ペレット(バーク不可)
発熱量（入力）最大	27,000KJ/h（6,500kcal/h)
発熱量（入力）最小	10,800KJ/h（2,580kcal/h)
熱効率	80%
暖房目安	50㎡(約30畳、コンクリート)
タンク容量	10kg
外形寸法	W470×D507×H772
重　　量	90kg
電　　源	100V　50Hz・60Hz
電源ヒューズ	10A
定格消費電力　点火時	450W
定格消費電力　運転時	100W/60W
安全装置	感震装置･過熱防止装置
機　　能	着火タイマ・掃除モード

■発熱量は、木質ペレットの発熱量、18,000KJ/kgを基準に算出しています。
■製品改良のため、デザイン、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
■この製品は、海外ではご使用になれません。

部品のご入用、故障の場合、その他取扱上不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買上げの販売店にお問い合わせください。
※改良の為お断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

Shimotani

製 造 元　　有限会社シモタニ
岐阜県下呂市萩原町上村853-1　TEL0576-52-3775

http://www.shimotani.com

販売店

AL1704　2013.5.1